

本表の略記法について

リソースに出現する CodeableConcept 型の要素は以下のような構造をとる。

No	要素 Lv1	要素 Lv2	要素 Lv3	要素 Lv4	多重度	型	値	説明
n	要素名				0..1	CodeableConcept		文書カテゴリ
n.1		coding			0..*	Coding		表現したいコンセプトのコード記述。 繰り返しにより複数のコード体系によるコーディングで記述できる。
n.1.1			system		1..1	uri	“http:.....”	コード体系。
n.1.2			code		1..1	code	“B0EF”	コード。
n.1.3			display		0..1	string	“持続腹痛”	コード体系におけるコードに対応するの表示名
n.2		text			0..1	string	“長く続く腹部の痛み”	表現したいコンセプトのテキスト記述

しかし、表を見やすくするため、この文書では、これを次のように 1 行で省略表記する。値の欄は、4 つの行(子要素)に使う値を列挙するが、省略することもある。多重度の記載は、1 段目に CodeableConcept 型の要素自体の多重度、2 段目にその子要素 coding の多重度(上表 n.1 の多重度)を転記している。

n	要素名				0..1 0..*	CodeableConcept	“http:.....” “00” “持続腹痛” “長く続く腹部の痛み”	説明
---	-----	--	--	--	--------------	-----------------	---	----

なお、coding の多重度の最小値が 0 (すなわち省略可能) の場合には、コードによる記述をせず、以下のようにテキストだけで記述することも許されている。

表 AllergyIntolerance リソース アレルギー情報

要素 Lv1	要素 Lv2	要素 Lv3	要素 Lv4	多重度	型	値	説明
resourceType						“Condition”	<b>AllergyIntolerance</b> リソースであることを示す
text				0..1	Narrative		本リソースをテキストで表現したものをに入れてもよい。
	status			1..1	code	“generated”	固定値。テキスト内容の全てがリソースのコンテンツから生成されたことを示す。
	div			1..1	xhtml	<div xmlns=“http://www.w3.org/1999/xhtml”>xxx</div>	値は例示。
identifier				0..1	Identifier		このアレルギー情報に付番された ID

要素 Lv1	要素 Lv2	要素 Lv3	要素 Lv4	多重度	型	値	説明
	system			1..1		"urn:oid:..."	付番方法については「識別子名前空間一覧」を参照。値は例示。
	value			1..1		"2020-10-002933"	アレルギー情報 ID の文字列。値は例示。
clinicalStatus				0..1	CodeableConcept	"http://terminology.hl7.org/CodeSystem/allergyintolerance-clinical "active"	臨床的状態のステータス。コード表は FHIR 準拠表で暫定値。 active   inactive   resolved 現存、非現存、解消
verificationStatus				0..1	CodeableConcept	"http://terminology.hl7.org/CodeSystem/allergyintolerance-verification "confirmed"	入力された臨床的状態に対する検証状況を示す。確からしさと考えられる。コード表は FHIR 準拠表で暫定値。 unconfirmed   confirmed   refuted   entered-in-error 未確認、確認済み、否定、エラー
type				0..1	code	"allergy"	副反応の生理的なメカニズムの種類(アレルギーによるものか不耐性によるものかどうか)。 コード表: "http://hl7.org/fhir/allergy-intolerance-type" allergy   intolerance アレルギー反応、不耐性反応
category				0..1	code	"food"	特定された原因物質のカテゴリ。

要素 Lv1	要素 Lv2	要素 Lv3	要素 Lv4	多重度	型	値	説明
							コード表: “http://hl7.org/fhir/allergy-intolerance-category” food   medication   environment   biologic 食物、医薬品、環境、生物学的
cliticality				0..*	code	“high”	潜在的な臨床的危険性、致命度。 コード表: “http://hl7.org/fhir/allergy-intolerance-criticality” low   high   unable-to-assess 低、高、評価不能
code				1..1	CodeableConcept	“http:// jpfhir.jp/fhir/eDischargeSummary/CodeSystem/Allergy-substance” “J7F7311990” ”牛乳・乳製品(詳細不明)”	アレルギー・不耐反応の対象物の情報。 jpfhir.jp での Allergy-substance コード表のコードを使用する。
patient				1..1	Reference(Patient)	“urn: .....”	対象となる患者リソースへの参照。
encounter				0..1	Reference (Encounter)	“urn: .....”	このアレルギー情報が確認され記録された受診情報(入院詳細情報または外来受診情報)への参照。  退院時サマリにおいては、表 2 の Encounter リソースのインスタンスを参照することにより。

要素 Lv1	要素 Lv2	要素 Lv3	要素 Lv4	多重度	型	値	説明
(onset)					(dateTime、Age、Period、Range、string)のいずれかひとつ。		このアレルギー・不耐性状態が同定された時期。  5 通りのいずれかの要素 (onsetDateTime、onseAge、onsetPeriod、onsetRange、onsetString) ひとつを選択して、それにより記述する。複数を選択はできない。onset 要素は記述しないで、直接 onsetDateTime 要素のレベルを記述する。
	onsetDateTime			0..1	dateTime		日付または日時。年や年月だけでもよい。  例: 2018, 1973-06, 1905-08-23, 2015-02-07T13:28:17+09:00。  時刻に 24:00 の使用はできない。
	onseAge			0..1	Age		年齢。患者の申告による、状態が出現し始めた年齢。
		value			decimal	“50”	年齢の値。
		comparator			code	“>=”	<、<=、>=、> のいずれか。  要素 value の値の解釈方法。例では、「50 歳以上で」と記述したい場合には、>= を記述する。
		unit			string	“歳”	単位表現
		system			uri	“http://unitsofmeasure.org”	単位体系 UCUM コード体系。固定値。

要素 Lv1	要素 Lv2	要素 Lv3	要素 Lv4	多重度	型	値	説明
		code			code	“a”	単位体系における単位コード。 コードと意味 min:minutes h:hours d:days wk:weeks mo:months a:years
	onsetPeriod			0..1	Period		期間。
		start		0..1	DateTime		期間の開始日時
		end		0..1	DateTime		期間の終了日時
	onsetRange			0..1	Range		曖昧な時期を最小値と最大値とで記述する。以下の記述例は 50 歳台。
		low		0..1			
			value		decimal	“50”	年齢の値。
			unit		string	“歳”	単位表現
			system		uri	“http://unitsofmeasure.org”	単位体系 UCUM コード体系。固定値。
			code		code	“a”	単位体系における単位コード。

要素 Lv1	要素 Lv2	要素 Lv3	要素 Lv4	多重度	型	値	説明
							コードと意味 a:years
		low		0..1			
			value		decimal	“59”	年齢の値。
			unit		string	“歳”	単位表現
			system		uri	“http://unitsofmeasure.org”	単位体系 UCUM コード体系。固定値。
			code		code	“a”	単位体系における単位コード。 コードと意味 a:years
	onsetString			0..1	string	“50 歳台”	文字列表現
recordedDate				0..1	dateTime		この状態が最初に記録された日時。
recorder				0..1	Reference(Practitioner   PractitionerRole   Patient   RelatedPerson)		この状態を記録した人情報への参照。
asserter				0..1	Reference(Practitioner   PractitionerRole   Patient   RelatedPerson)		この状態があると確認(主張)した人情報への参照。
lastOccurrence				0..*	dateTime		最後(直近)に知られている発生日時

要素 Lv1	要素 Lv2	要素 Lv3	要素 Lv4	多重度	型	値	説明
note				0..*			状態に関する追加的な情報で他の要素で記述できないような情報。
	author						
		authorString		0..1	string	“看護担当者”	記載者氏名などの文字列。必ずしも氏名でなくてもよい。
	time			0..1	dateTime		この追加的な情報が作成された日時。
	text			1..1	markdown		追加的な情報の内容。markdown形式のテキストが使用できる。データとして 1M バイト以内であること。
reaction					BackboneElement		対象物質に暴露したことに関連した有害反応の情報
	substance					“http:// jpfhir.jp/fhir/eDischargeSummary/CodeSystem/Allergy-substance” “J7F7311154” ”モツアレラチーズ”	有害反応イベントの原因であると考えられる特定の物質(または医薬品)。 jpfhir.jp での Allergy-substance コード表のコードを使用する。 注: 特定の反応の物質は、リスクの原因として特定された物質とは異なる場合がありますが、それと一貫性がある必要がある。 例えば、「reaction.substance」の物質は、 <b>AllergyIntolerance</b> .code 要素と比べて、より具体的な物質(例えば、ブランド薬)または特定された物質を含む複合製品であり得る。 <b>AllergyIntolerance</b> .code 要素の記述(アレルギー・不耐反応の対



要素 Lv1	要素 Lv2	要素 Lv3	要素 Lv4	多重度	型	値	説明
							<p>象物の情報要素)のみを処理して「reaction.substance」の情報を無視しても、臨床的に安全でなければならない。</p> <p>このリソースを受信して処理するシステムが、もし「reaction.substance」と <b>AllergyIntolerance</b> .code 要素の記述物質との意味的な包含関係を処理できないのであれば、システムはこの「reaction.substance」要素を無視しなければならない。</p>
	manifestation			1..*	CodeableConcept	urn:oid:1.2.392.200119.4.101.6” “B0EF” “持続腹痛” “長く続く腹部の痛み”	アレルギー反応に関連する症状や所見。  system 値は MEDIS 標準病名マスター病名交換用コードを使用する場合の例示。”B0EF”は、MEDIS 標準病名マスター病名交換用コードで“持続腹痛”のコード。“持続腹痛”はそのテキスト記述の例。
	description			0..1	string	“チーズを食べて 1 時間後から激しい腹痛と下痢がながく続いた。”	イベントの全体的な記述。
	onset			0..1	dateTime	“2010-01-02”	関連する症状や所見が見られた日時。
	severity			0..1	code	“severe”	反応の激しさ程度。 コード表: <a href="http://hl7.org/fhir/reaction-event-severity">http://hl7.org/fhir/reaction-event-severity</a> mild   moderate   severe

要素 Lv1	要素 Lv2	要素 Lv3	要素 Lv4	多重度	型	値	説明
							軽度、中等度、強度
	exposureRoute			0..1	CodeableConcept	“urn:oid:1.2.392.20025.0.2.2.20.40” “10” “内服経口” “経口摂取”	物質の摂取経路の情報。 JAMI 標準用法の投与経路コード表を使用する。
	note			0..*			他のフィールドで記述できないイベントに関するテキスト記述
		author					記載者の情報
			authorString	0..1	string	“患者の母親”	記載者氏名などの文字列。必ずしも氏名でなくてもよい。
		time		0..1	dateTime		この追加的な情報が作成された日時。
		text		1..1	markdown		追加的な情報の内容。markdown形式のテキストが使用できる。データとして 1M バイト以内であること。